

H31学力向上アクションプラン(中津市)

目標及び指標

- ア 全国調査で国語・算数・数学の全ての項目において全国平均を上回った学校数の増加
- イ C層の児童・生徒の割合の減少
- ウ ユニバーサルデザインによる授業づくり・小中連携による授業改善を組織的・計画的に行う学校を増やす

達成指標	取組指標
中津市学力調査で国語・算数・数学の全ての項目で全国平均を上回った学校数 ・小学校15校 (H30は10校・H29は5校) ・中学校4校 (H30は2校・H29も2校)	・全ての学校の校内研修で、全教職員が自校の学力調査分析をし、調査問題を解いてみたり、解答類型を確かめる研修を行ったりして、自分の学校の学力の課題と、調査問題で問われている資質・能力を明らかにする。 ・国語科・算数科・数学科の授業において、1学期に1回以上、活用問題を教材に用いた授業を行う。 ・授業の終末で指導内容やめあての達成に迫るよう、「視点を与えて振り返りを書かせる」活動を、全教職員が1単元に1回以上は行う。 ・学力向上支援教員等・指導教諭の授業に年1回以上は全教職員が参加する。
市学力調査における小学校第6学年のC層 ○国語・・・18%以下(H29年市学力調査20%) ○算数・・・25%以下(同31.6%) 中学校第3学年のC層 ○国語・・・30%以下(同32.3%) ○数学・・・30%(同34.4%) ○英語・・・45%以下(同51.6%)	・市内で、全国調査のAが全国平均に達していない学校・教科においては、習熟度別指導の授業を行う。 ・中学校の家庭学習において、自主学習だけでなく、県や市のデータベースの問題を週2回以上は利用する。 ・学力向上プランの達成指標を全ての学校で達成する。 ・中学校英語部会で、語彙力を向上させるための統一した取り組みを決定し、全校で取り組む。
・緑ヶ丘中校区、城北中校区の全ての学校において授業改善の5セット」の中に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 ・全ての校内研や部会研で小中連携の取り組みを行う。 ・言語能力育成ハンドブックを使用した小学校100%	・年4回の教育課程研究協議会の部会のうち、1回以上(特に部会研究授業)は教科部会を小・中合同で行い小中連携の成果を共有する。 ・新大分スタンダードの深化のため、ユニバーサルデザイン授業推進重点地域で年1回以上は、指導主事を招聘し、子どもの視点を大切にした授業づくり(ユニバーサルデザインによる授業づくり)の研修を行う。 ・ユニバーサルデザイン授業推進重点地域の校内研修に参加した指導主事はユニバーサルデザインの授業づくりにより、児童・生徒が主体の学習活動がある授業が組織的・計画的に行われているか確認し、次の定期訪問に生かす。 ・言語活動ハンドブックの使用例を中津学通信や研究主任会議で紹介し使用を促進する。

行動計画

①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

- 学力向上支援教員等・指導教諭による学力向上のための授業改善の推進**
 - ・年3回の学力向上支援教員等年1回の指導教諭の公開授業に市内教職員が年間1回は、授業研と事後研に参加する。
 - ・月に1回、学力向上支援教員等・指導教諭による推進協議会をもつ。
 - ・兼務校に週1～2回定期訪問を行い新大分スタンダードの深化に向けた授業づくりにかかわる。
 - ・ユニバーサルデザイン(UD)授業推進重点地域を2地区、それぞれに推進重点校を小中1校ずつ配置し、UDによる授業によって、児童・生徒主体の組織的・計画的授業改善を推進する。
- 各校教務主任・研究主任による組織的・計画的授業改善の推進**
 - ・指導教諭、学力向上支援教員等による市の学力調査問題作成会議・分析会議を年3回行う。
 - ・各校研究提案前に研究主任会議を行い新大分スタンダードの深化に向けた研究テーマや授業改善5点セットの見直しをする。
 - ・年3回の研究主任会議において、新大分スタンダードの深化・進捗具合についての確認を行う。
 - ・教務主任会議において、授業改善の5点セットと校内研究の連動について確認する。
 - ・各会議において、岐阜県先進地視察の環流報告や、ユニバーサルデザインを重視した授業づくりについての還流報告を行う。
- 中津市授業研究会による市内各校への拡充**
 - ・小学校1校、中学校1校の公開授業・研究協議・講義を中心とした中津市授業研究会により、市内各学校へ、新大分スタンダードが深化した授業を拡充していく。

②「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目(6つの視点)の実施に関して

- 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底について**
 - ・全中学校に「生徒指導の3機能を意識した授業実践」「問題解決的な展開の授業」「授業改善の取り組み」「互見授業の実施」についての教職員アンケートを実施し、結果を中核校の学力向上支援教員等と分析を行い、「新大分スタンダード」の深化につなげる。
 - ・ユニバーサルデザイン(UD)授業推進重点地域を課題がある中学校を2地区指定し、それぞれに推進重点校を小中1校ずつ配置、学力向上支援教員等、指導教諭、教科担任の連携協議会をもち、子どもの視点を大切に組織的・計画的授業改善を推進する。
- 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築について**
 - ・耶馬溪地区3校、東部地区2校の合同教科部会を実施し、互見授業、評価問題の作成を行う。
 - ・複数の教科担任がいる学校では2学年以上の教科担任「タテ持ち」を実施する。校内教科部会を、日課表の中に位置づける。
- 生徒と共に創る授業の推進**
 - ・全中学校において、生徒による授業評価を実施し、授業改善に生かす具体的な方法について提示する。
 - ・市授業研究会を行う学校においては授業改善、校内研究、学校組織を推進し、モデルとして広げる。
 - ・生徒会専門部を機能させ、生徒による学習目標の設定、実施、改善、見直しを実施する。
 - ・東中津中学校、中津中学校の取組を、自主公開研究授業と他の主任会議を連携させることでひろめる。

③小学校教科担任制の推進に関して

- ・主幹教諭・指導教諭が配置された学校においては、1学年以上において教科担任制を実施する。
- ・教科担任制を実施した教科においては、各種学力調査調査や単元テスト、定期考査、学校の実態が分かる調査などの結果により、学力面、生徒指導面の効果を把握する。
- ・主幹教諭、指導教諭は、教科担任制県内のモデル地域、モデル校の校内研究会に、年1回参加し、効果的な取り組みを自校に取り入れる。

④新学習指導要領の実施等に関して

- 小学校外国語教育への対応**
 - ・来年度の年間計画を外国語活動部会で作成し、市内全小学校で活用する。
 - ・各校の要請に応じて、指導主事や推進リーダーが出前研修を行うと共に、校内研修の支援を行う。
 - ・モデル校を設定し、授業の進め方をモデル校から全小学校へ広げる。
- 学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について**
 - ・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントのあり方についての研修を、教務主任会議を中心に行っていく。
 - ・H28年度、29年度文部科学省指定研究指定校(山口小学校・東中津中学)の総合的な学習の時間の実践によって明らかになった、資質・能力、評価基準を、山口小学校、東中津中学校の公開授業によって広めていく。
- 地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)について**
 - ・既に社会教育で実施している「協育ネットワーク」の取組成果を活かしてコミュニティ・スクール導入を促進する。